

授業科目 言語発達障害 I

【担当教員名】 山岸 遼弥、渡辺 時生	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

言語発達障害の中で、精神遅滞、広汎性発達障害の特徴を理解する。
 評価方法を障害の診断基準および発達の観点から理解する。
 検査の種類とその利用、検査の実際（施行、採点、解釈、翻訳）と報告書の書き方を修得する。
 指導の諸技法、指導のためのプログラム、指導上の留意点を理解する。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 小児の言語障害全体を理解する。
2. 言語発達障害の成因となる障害の言語・行動特徴および評価・診断基準を説明できる。
3. 各種検査を理解し、適切な検査法を実施できる。
4. 指導法の総論について理解する。
5. 指導法の各論について理解し、実践できる。
6. 検査の施行、採点、解釈、翻訳（報告書を含む）の各段階を実施できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	言語発達障害の概要	1	
2	精神遅滞（知的障害）	2・3	
3	精神遅滞（知的障害）	2・4	
4	広汎性発達障害	2・3	
5	広汎性発達障害	2・4	
6	各種検査の理解	3	
7	各種検査の理解	3	
8	検査の実際(1) 田中ビネー-知能検査V 解説	6	演習
9	検査の実際(2) ITPA言語学習能力診断検査 解説	6	演習
10	検査の実際(3)-A 田中ビネー-知能検査V 検査	6	演習（2コマ連続）A group
11	検査の実際(3)-A 同上	6	同上
10	検査の実際(3)-B ITPA言語学習能力診断検査 検査	6	演習（2コマ連続）B group
11	検査の実際(3)-B 同上	6	同上
12	指導法の理解 指導法全体・障害に即した指導法	4・5	
13	指導法の実際 事例研究	4・5	
14	まとめ 発表・小テスト	ALL	演習・小テスト

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書	リストを講義開始日に別途配布予定。			
その他の資料	適宜配布			

【評価方法】 出席状況(20%)、演習参加状況(20%) 小テスト(10%)、期末試験(50%)	【履修上の留意点】 ・第10・11回は、2コマ続きでグループ別に2週にわたり分かれて行う。 ・演習参加状況の評価は、学生間の他者評価に基づき評定する。 ・演習についての説明・日程表、参考書リストなどを講義開始日に配布予定。
--	--

言語聴覚学科 専門